

トヨタカローラ中京

KUO
GROUP



SUPER FORMULA **LIGHTS** RACE REPORT

Rd.9/Rd.10/Rd.11 @AUTOPOLIS

TEAM
TOM'S

天候：晴れ・ドライ / 気温：10-10℃ / 路面温度：12-12℃

11月の半ばに九州、阿蘇の外輪山に位置するオートポリスの朝は、秋を通り越して冬の様相を呈していた。全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権の第4大会＝第9戦、第10戦、そして第11戦が行われた。土曜日のスケジュールのトップバッターとして早朝から予選が行われた。未明に露が降りて、セッションが開始されたときには、路面の一部が湿っている箇所があった。そのような厳しいコンディションの中でも、ポイントリーダーのカローラ中京Kuo TEAM TOM'S36号車を駆る宮田莉朋は、コースレコードタイムを更新して第9戦のポールポジションを獲得。セカンドベストタイムによって、第10戦は3番手のグリッドを得た。37号車の小高一斗は、両レース決勝を4番手のグリッドからスタートすることとなった。



- 早朝のオートポリス周辺の公道は影になるところは、露に濡れていた。サーキットの一部箇所はやや湿って、縁石はセッションの開始直後は濡れていた。午前8時20分から30分間の予選が始まった。
- 1セット目のニュータイヤでコースインした宮田は3周目に1分36秒台に突入。小高も4周目に36秒台に入った。
- ピットインして2セット目のニュータイヤをセットすると共に、コンディションに合わせたセット変更、そしてコースコンディションが改善して行くのを待って、残り時間7分30秒の時点でコースイン。
- タイヤのウォームアップが終わり、アタックに入ろうとした時に1台がコースオフしたためにセッション中断となった。セッション再開後の残り時間は、3分05秒。
- 宮田は3セット目のニュータイヤをセットして、1周のウォームアップ後に1分35秒493を記録。これがベストタイムとなり、コースレコードも更新した。小高は、2セット目のタイヤのままコースインして1分36秒063をマークした。
- 第11戦の決勝グリッドは、第9戦の決勝結果によって決められる。

Driver

Car No.

Qualifying for 9

Qualifying for 10

宮田 莉朋

36

P1 1'35.493

P3 1'36.548

小高 一斗

37

P4 1'36.063

P4 1'36.701

天候：晴れ・ドライ / 気温：10-10℃ / 路面温度：12-12℃

**36** / ドライバー

宮田 莉朋

予選開始直後は、露が降りた影響で路面が濡れていて、コースのイン側、アウト側の縁石も所々濡れていて、乗ると水しぶきが上がるほどでした。乗ってしまうと完全に滑ってしまうので、縁石まで攻めることができなかった。2セットのニュータイヤをセットして、各3周目でアタックをかけようという予定でした。2周目を終えようとしていた時に赤旗が提示されてセッションが中断。ピットに戻り、3セット目のタイヤを使用すべきかどうか悩んだのですが、2セット目のタイヤにはすでに一度熱が入った状態ですから、ポールポジションを獲得できるタイムを出せないかもしれないと判断して、3セット目のニュータイヤを使うことにしました。残り時間が短い中、ウォームアップが1周しかできない状況に不安がよぎりましたが、チャレンジしなければポールも取れない。チャレンジして失敗しても良いじゃ無いか、これまでチャレンジしなくてポールを獲得ができなかったことがあったので、3セット目のチャレンジをしました。1周で温めてアタックをかけて、ベストタイムを叩き出すことができました。コースレコードタイムも更新できて嬉しいです。

**37** / ドライバー

小高 一斗

前週のSUPER GTは体調不良でお休みしましたが、今回体調は戻っています。ご心配をおかけしましたが、もうバッチリです。予選の路面コンディションが露で濡れていて前日までの練習走行と全然違って、1セット目のタイヤでは全然グリップしてくれなくて大変でした。それでも、3周目でアタックを開始したら、迎え風のせいでも1コーナーのブレーキングでかなり手前で減速を終わってしまったので、次の周で修正して一応タイムを出せました。2周連続してアタックをかけて、その2周目にタイムアップできたのは、路面温度が低かったおかげでタイヤの温度が一気に上がらなかったからかなと思います。2セット目のタイヤでアタックしようとしていた時に最終コーナーの立ち上がりで赤旗を確認したので、そのままピットインしました。もう1セット、ニュータイヤを使うかどうか迷ったのですが、2セット目のユーズドで行きました。いずれにしても、マシンが思うように曲がってくれなくて苦労した予選でした。



天候：晴れ・ドライ / 気温：10-10℃ / 路面温度：12-12℃



チーフエンジニア

吉武 聡

セッション開始直後は、路面と縁石が露で濡れていて、縁石を使う走りが1セット目ではできなかったですね。2セット目のタイヤをセットして、コンディションにマシンのセットアップをアジャストしました。しかし、アタックに入りかけたところでセッションが中断してしまいました。予定では2セットのタイヤで予選を終えることにしていたのですが、宮田本人がもう1セット、ニュータイヤで行くと言うので、それに賭けてみました。残り時間がとても短かったので、ヒヤヒヤしましたが、宮田はやってくれましたね。彼の判断が正しかったということですね。本人の頑張りで獲得できたポールポジションです。セカンドベストタイムは、先に3セットタイヤの作戦でタイムを出したドライバーたちにフロントローをとられてしまいましたが、決勝では抜いてきてくれることを期待しています。小高も3セット目を使おうか考えましたが、そのまま2セット目のタイヤのまま最後のコースインをしてもらいました。



監督

山田 淳

早朝の予選ですから、コースコンディションの変化に合わせるのが難しかったですね。露が降りてしまっていて、セッションが開始された時には、コースの一部が濡れていましたから、1セット目のタイヤではどうしてもタイムが出なかった。そこで、1セット目のアタックを終えてから、2セット目でアタックする前にコースコンディションが改善するのを待ってからアタックを開始しました。そうしたらウォームアップを終えて、これからという時にセッションが中断されてしまい予定が狂った。予選は、2セットのタイヤでアタックして終える予定だったのですが、宮田に3セット目のニュータイヤをセットすることにしました。残り時間3分ちょっとですからウォームアップは1周だけでしたが、宮田が一発でベストタイムを叩き出してくれました。小高は、前週のSUPER GTを体調不調で欠場したのですが回復してくれました。何とか宮田に続いて欲しかったのですが、彼は予定通り2セットのタイヤでアタックして、3セットを使ったマシンに前に行かれてしまいました。それでも2列目からのスタートです。



天候：晴れ・ドライ / 気温：19-20℃ 14-15℃ 24-20℃ / 路面温度：32-32℃ 15-17℃ 35-33℃

オートポリスの朝と午後の気候は一変した。早朝は冷え込むものの、そこから一気に気温が上がり、小春日和を通り越して暑さを感じさせた。午後に行われる決勝は、気温と共に路面温度も上がったので、そのコンディションに合わせ込むことが重要になった。カローラ中京Kuo TEAM TOM'S36号車、宮田莉朋は第9戦と第11戦をポールtoウィン、ファステストラップタイムも記録。第10戦は、スタートポジションのままフィニッシュした。37号車の小高一斗は、第9戦においてエンジントラブルが発生してリタイアしてしまった。エンジン交換をせざるを得なくなり、第10戦、第11戦は共に4位でゴールした。宮田は、世界耐久選手権参戦のために欠場した中嶋 一貴に代わってスーパーフォーミュラもドライブした。



- 第9戦でスタートを決めた宮田は、一気に後続を引き離して周回を重ねるごとに2位以下との差を開いて、8秒3の大差で優勝。ファステストラップタイムも記録した。
- 小高は、13周して4位を走行中にエンジンの異常を知らせる警告表示が出てスロー走行。1周してピットまで戻ろうとしたが、エンジンから異音が発生したので、コースサイドにマシンを止めてリタイアしてしまった。これによって、第11戦のスターティンググリッドは最後尾が決定してしまった。
- 第10戦のスタートで宮田はスタートのタイミング良く蹴り出したが、1コーナーまでに順位アップならず。スタートポジションをキープしてフィニッシュ。小高は、エンジン交換によるスタートポジション降格で9番手から4位まで順位を上げてフィニッシュした。
- 第11戦で再びポールポジションからスタートした宮田はポールtoウィンで今季9勝目を挙げた。
- 小高は、最後尾から序盤一気に順位アップして4位ゴールを果たした。



Driver	Car No.	Rd.9/ Fastest Lap	Rd.10 / Fastest Lap	Rd.11 / Fastest Lap
宮田 莉朋	36	P1 1'37.683	P3 1'37.227	P1 1'37.797
小高 一斗	37	R 1'38.670	P4 1'37.754	P4 1'38.343

天候：晴れ・ドライ / 気温：19-20℃ 14-15℃ 24-20℃ / 路面温度：32-32℃ 15-17℃ 35-33℃

**36** / ドライバー

宮田 莉朋

スタートをより良くするためにいろいろ考えてきましたが、修正や新しいコツを得て、オートポリスでのスタートは全て良かったです。オートポリスのコース自体は、あまり得意なサーキットではなかったのですが、トップに立てば2位以下に差をつけて勝つ自信はありました。第10戦もスタートは良く、1コーナーまでに前のマシンに並びかけたのですが、イン側だったので抜くまでに至らず、ポジションを上げられませんでした。そこでファステストを狙って行っていたのですが、やはり前にマシンが走行しているとダウンフォースが抜けて、特に第3セクターでグリップがなくなってしまうのでダメでした。第11戦は第9戦と同じく、スタートが決まり、勝つことができ、二つのレースでフルマークで終わることができました。今回スーパーフォーミュラをドライブするチャンスをいただき、忙しかったですがまたチャンスがあれば是非ドライブさせていただきたいです。

**37** / ドライバー

小高 一斗

第9戦でスタートポジションをキープして4位を走行中、13周を終えたホームストレートでエンジンの異常を知らせる表示が出ました。チームに知らせるとゆっくりと戻って来るように言われたので、スローダウンして走行していたら、途中でエンジンから変な音がしたのでそれ以上の走行をやめてコースサイドに出て、マシンを止めました。このリタイヤで第11戦の最後尾スタートが決まってしまいました。またエンジン交換をしたので、第10戦は5グリッド降格のペナルティを受けて、9番手からのスタートでした。第10戦も第11戦もスタートが良くて一気にポジションを上げることができたのですが、トップ3のマシンは自分が4位まで上がるまでにはるか先に行ってしまうので、両レース4位で終わりました。後方からのスタートだと落ち着くのか、良いスタートを切ることができたので、上位からのスタートでもそれができたら順位を上げられると思います。



天候：晴れ・ドライ / 気温：19-20℃ 14-15℃ 24-20℃ / 路面温度：32-32℃ 15-17℃ 35-33℃



チーフエンジニア

吉武 聡

今回は季節外れというか、コンディションが午後になるとかなり変化して、それに合わせる事が重要でした。早朝と午後では気温、路面温度が全然違いましたので、それにアジャストを行なって決勝に臨みました。宮田はポールからスタートさえ失敗しなければ勝てるので、二つのレースでそれをきちんと決めてくれました。スタートの精度は上がっていると思います。第10戦はスタートは良かったのですが、ポジションが悪くて前に出られなかったですね。小高はちょっと不運でした。エンジンのトラブルが起きてしまって、一つのレースを失って、それが後のレースにも影響してしまって表彰台を獲得できませんでした。彼もスタートは良かったので、今後のレースに生かしてもらいたいと思います。



監督

山田 淳

宮田はスタートで前に出れば全く問題なく、ペースも良かったですから2勝してくれました。今回すべての決勝でスタートがとても良かったと思います。スーパーフォーミュラ(SF)のドライブとダブルヘッダーだったのですが、うまく切り替えて走ってくれました。SFでも速さを示してくれて頑張りましたね。小高に関しては、エンジントラブルの発生で申し訳ないことをしてしまいました。3レースを行うレギュレーションでは、3戦目のスターティンググリッドにも影響してしまうし、エンジンを交換しなくてはならなかったのも、そのペナルティも受けるという厳しい結果となってしまいました。しかし、第10戦と第11戦のスタートから序盤でのパッシング、順位アップは良かった。後方からのスタートでリラックスしてできたのでしょうか。上位のスタートでも同じように良いスタートを切って欲しいですね。

京ア

